

Sargassum kjellmanianum と *S. miyabei* (褐藻,
ホンダワラ科) の選定基準標本

吉田 忠生

Lectotypification of *Sargassum kjellmanianum* and *S. miyabei*
(Phaeophyta, Sargassaceae)

Tadao YOSHIDA

YOSHIDA, T. 1978. Lectotypification of *Sargassum kjellmanianum* and *S. miyabei* (Phaeophyta, Sargassaceae). Jap. J. Phycol. 26: 121-124.

Lectotypes of *Sargassum kjellmanianum* YENDO, *S. miyabei* YENDO and *S. kjellmanianum* f. *muticum* YENDO are selected from the syntypes deposited in SAPA and TI (Figs. 1, 3, 4). From the examination of sexuality and holdfast characters as well as the shape of vesicles in these syntype specimens, *S. kjellmanianum* and *S. miyabei* are concluded to be conspecific. In the reason to avoid confusions, the name of *S. miyabei* is chosen for this taxon. *S. kjellmanianum* f. *muticum* is an independent taxon in the specific rank from *S. miyabei*. For this taxon the name of *S. muticum* was already proposed by FENSHOLT. New combination *S. muticum* f. *longifolium* (TSENG et CHANG) YOSHIDA is made basing on *S. kjellmanianum* f. *longifolia*.

Tadao Yoshida, Department of Botany, Faculty of Science, Hokkaido University, Sapporo, 060 Japan.

邦産のホンダワラ属植物のうち YENDO (1907) によって新種として記載されたものは10種ある。このうち北海道沿岸の材料に基いているのがハハキモク *Sargassum kjellmanianum* とミヤベモク *S. miyabei* の2種である。彼の研究においては雌雄性に関する特徴は考慮されておらず、ミヤベモクについては附着器の性質に関しても明確な記述もない。その後、猪野 (1947) は神奈川県三崎産のハハキモクと同定された材料について雌雄同株であり、同一生殖器床に雌・雄の生殖器巢が混在すると述べた。他方ミヤベモクについては山田 (1944) がその基部の特異性について触れ、TOKIDA (1954) は雌雄異株であるところを樺太の材料で認めた。この見解が以後一般に受け入れられて今日に到っている。

山田 (1954) は東大理学部植物学教室の標本室 (TI) に保管されている標本を調べて YENDO のハハキモクがミヤベモクを混同している可能性について述べた。

YENDO (1907) の記述に基き、これら2種のタイプ標本を確定することに努めた結果、TI にある *S. kjellmanianum* f. *muticum* YENDO の syntypes を

除いて、上記2種ともその syntypes は北大農学部の標本室 (SAPA) に保管されている宮部コレクションの中にあることが明らかとなった。これらの標本を精査してそのなかから lectotype を指定し、この両種の関係について検討した。

(1) ハハキモク *S. kjellmanianum* YENDO の syntypes

山田 (1954) は TI の11枚の標本を原標本としているけれども、彼の論文中に列記された標本の大部分はこの種が記載された1907年以後の採集品であり、protologue に記述された産地とも異なっているため、これらを syntypes と認めることはできない。YENDO (1907, p. 106) は陸前の1標本を除いて H. H. F. (Herbarium of the Department of Fisheries of the Hokkaido Local Government) と H. S. A. (Herbarium of the Sapporo Agricultural College) と附記した地名を引用している。そのうち Notoro, Soya を除くものは下記の様な採集記録のものが SAPA に保管されている。

1) 渡島国松前郡福山, 明治23年6月8日, 野沢. 2) 函館, May 1903. 3) Esashi, Oshima, July 24, 1890, K. MIYABE. 4) Esashi, Oshima, July 24, 1890, K. MIYABE. 5) 渡島国爾志郡突符, June 23, 1900, 中島庸三. 6) Takashima, Prov. Shiribeshi, June 4, 1901, MIYABE. 7) 後志国余市郡余市町, 明治24年5月10日, 渡辺. 8) Yagishiri Island, May 15, 1891, NOZAWA & FUKUSHIMA. 9) Kutsukata, Rishiri, Sept. 7, 1896, HIROSE. 10) 釧路厚岸湖内, July 1894, MIYABE. 11) 国後島西浦, July 4, 1891, 田中. 12) Shana, Etolof, Aug. 1890, FUJIMURA.

これら12枚の標本が syntypes ということになる。このうち 8) は若い 16.5 cm の標本で YENDO 1907, pl. 15, f. 1 のものになったものと思われる。3), 4) は成熟した個体で雄の生殖器床をつけている (Fig. 2) 6) はごく若い生殖器床しかもっておらず, 性別を区別することも, 雌雄同株かどうかを判定することもできない。しかし附着部までそろった標本であるから, これを lectotype と指定したい (Fig. 1)。

なお, protologue には陸前産の標本が引用されているが, これは SAPA でも, またすでに山田 (1954) が見ている TI の標本にも見付けることができなかった。この産地からみると, *S. kjellmanianum* は北海道周辺と千島南部に分布しているといえる。

(2) ミヤベモク *S. miyabei* の syntypes

YENDO (1907, p. 114) の産地の項には “H. H. F.”, “H. S. A.” と指示してある標本の引用があり, SAPA には下記の様な標本が保管されている。

1) 渡島国松前郡江良町, 明治24年6月22日, 田中 2, 3) 渡島国函館, 明治23年10月12日, 野沢. 4) 利尻杵形. 5, 6, 7) 北見国宗谷岬, 明治25年7月18日, 福島. 8) Kunashiri, Nishishoro, July 13, 1893, WATANABE. 9) 千嶋国国後郡チャシツ, 明治26年7月5日, 松岡.

これらはすべて遠藤によって同定された標本であり, 産地からみても syntypes であることは明らかである。このうち宗谷岬の標本が YENDO 1907, pl. 14, f. 13-14 の基礎になっていると考えられる。また 3) は雌性生殖器巣のみを含む生殖器床が確認された雌個体であり, 5), 6) はそれぞれ雌および雄の個体であり, 8) は雄個体であることが観察の結果分った。5) の標本を lectotype とするのが適当である (Fig. 3)。

(3) *S. kjellmanianum* f. *muticum* の syntypes
山田 (1954) が示した TI の12枚の標本は YENDO

(1907, p. 106) の引用した標本のすべてで, syntypes である。このうち紀州出雲 (Apr. 1902) 産の標本 (Fig. 4) を未熟個体ではあるけれども lectotype として選定したい。

考 察

上記の syntypes を精査すると, ハハキモク *S. kjellmanianum* YENDO は雌雄異株であり, 気胞は楕円形で先端が尖っており, 山田 (1944) がミヤベモクについて記述したものと同様に円盤状附着器の周辺から匍匐する短い繊維状の根を発出していて, 現在我々が認めているミヤベモク *S. miyabei* YENDO の範囲内に入る特徴を示している。そこで syntype 標本から判断する限り, 遠藤の考えた *S. kjellmanianum* は *S. miyabei* とは区別できないもので, これらは synonymous であると結論される。*S. kjellmanianum* の名前の方が YENDO の論文で前に (p. 102) 記述され, *S. miyabei* が後 (p. 112) に記載されているけれども, この taxon には後者を用いる方が混乱がないと思われ, この様な決定は国際植物命名規約第57条に反しない。和名もミヤベモクとしておく方がよいであろう。

S. kjellmanianum f. *muticum* YENDO タマハハキモク (新称) については, syntypes から猪野 (1947) のような雌雄同株であると断定はできないけれども, その形態の特徴, 分布等も考慮に入れて, 日本南部で現在ハハキモクとしているものと同一であると判定できる。この taxon はすでに FENSHOLT (1955) によって *S. muticum* (YENDO) FENSHOLT とされているから, この学名を用いることになる。

これを纏めると次のようになる。

Sargassum miyabei YENDO, J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 21(12): 112. pl. 14, f. 13-14. 1907. nom. jap.: Miyabe-moku ミヤベモク

Lectotype: SAPA (Cape Soya, Prov. Kitami, Hokkaido, July 18, 1892, leg. FUKUSHIMA, female)

synonym: *S. kjellmanianum* YENDO, l.c. 21(12): 102. pl. 15, f. 1. 1907 ハハキモク.

Lectotype: SAPA (Takashima, Prov. Shiribeshi, Hokkaido, June 4, 1901, leg. MIYABE)

Sargassum muticum (YENDO) FENSHOLT, Amer. J. Bot. 42: 313. 1955.

Basionym: *Sargassum kjellmanianum* f. *muticum* YENDO, l.c. 21(12): 104. 1907.

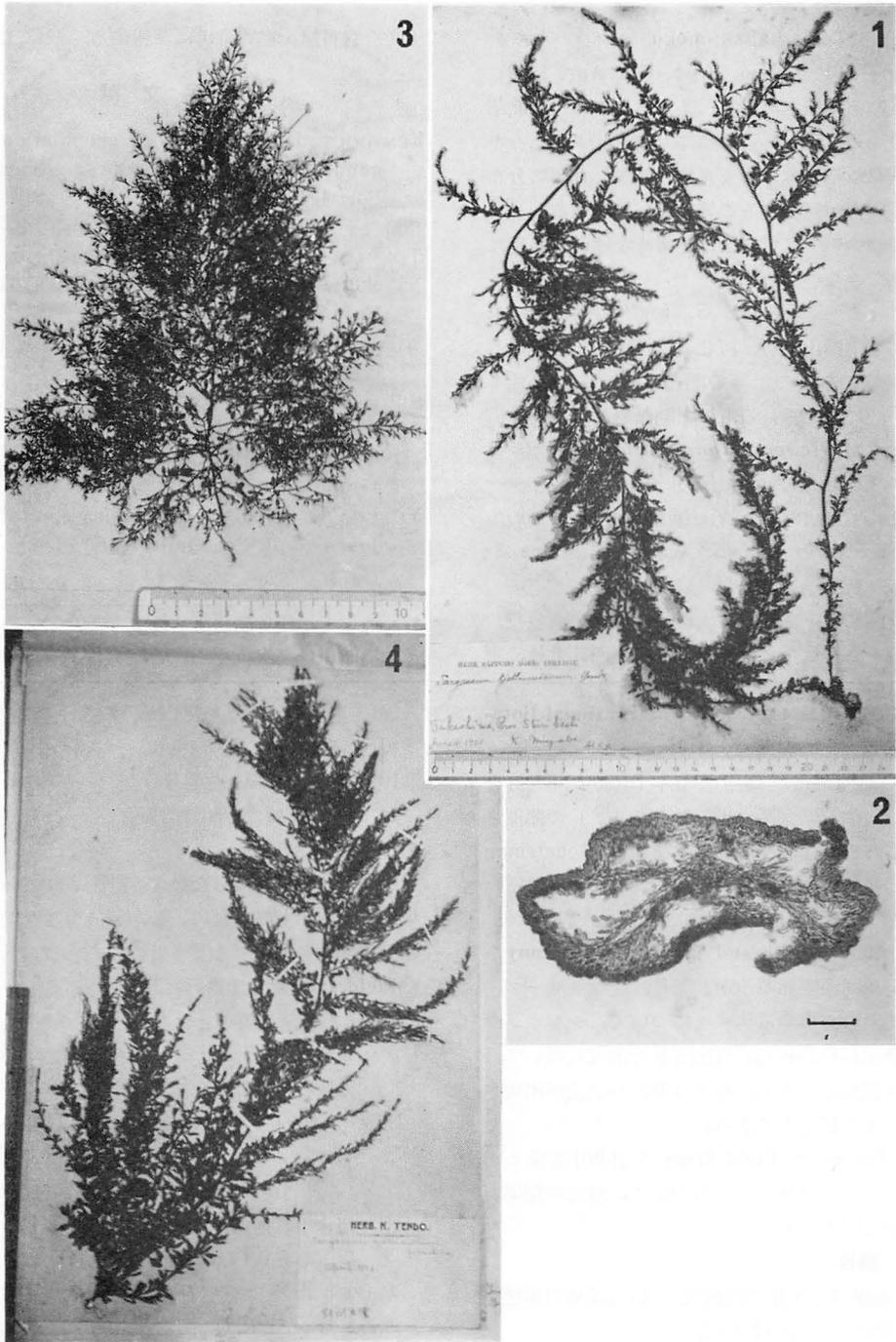


Fig. 1. Lectotype of *Sargassum kjellmanianum* YENDO (SAPA, Takashima, Prov. Shiribeshi, Hokkaido, June 4 1901, MIYABE).
 Fig. 2. Cross section of male receptacle in a syntype of *S. kjellmanianum* (SAPA, Esashi, Oshima, Hokkaido, July 24 1890, K. MIYABE). Scale: 100 μ m.
 Fig. 3. Lectotype of *S. miyabei* YENDO (SAPA, Cape Soya, Prov. Kitami, Hokkaido, July 18 1892, FUKUSHIMA).
 Fig. 4. Lectotype of *S. kjellmanianum* f. *muticum* YENDO (TI, Izumo, Prov. Kii, Honshu, April 1902).

nom. jap.: Tama-hahaki-moku タマハハキモク
Lectotype: TI (Izumo, Prov. Kii, Apr. 1902)

現在手許にある標本からも、ミヤベモクは本州北部から北海道周辺、樺太、南千島に分布し、タマハハキモクは宮城県以南の本州太平洋岸、四国、九州に分布しており、両方が混生することはない様である。しかし分布範囲については更に標本を集めなければ明確にすることはできない。

なお、曾・張 (1954) は *S. kjellmanianum* f. *longifolia* を中国山東省、河北省、遼寧省から記録した。雌雄同株であること等の記述から、この品種も *S. muticum* に含まれるものと判断される。

Sargassum muticum* f. *longifolium (TSENG et CHANG) YOSHIDA, comb. nov.

Basionym: *Sargassum kjellmanianum* f. *longifolia* TSENG et CHANG, Acta Bot. Sinica 3: 358. pl. 1, pl. 2. 1954.

原稿を校閲して下さった北大理学部黒木宗尚教授、標本の借覧を許された北大農学部四方英四郎教授、東

大総合資料館大場秀章氏に深謝する。

引用文献

FENSHOLT, D. E. (1955) An emendation of the genus *Cystophyllum* (Fucales). Amer. Journ. Bot. 42: 305-322.

猪野俊平 (1947) 海藻の発生. 北隆館, 東京 255 pp.

TOKIDA, J. (1954) The marine algae of southern Saghalien. Mem. Fac. Fish. Hokkaido Univ. 2: 1-264.

曾呈奎・張俊甫 (1954) 中国馬尾藻属の研究 III. 解氏馬尾藻. 植物学報 3: 353-366.

山田幸男 (1944) みやべもくノ基部. 植研 20: 225.

山田幸男 (1954) ハハキモク (*Sargassum kjellmanianum* YENDO) の原標本について. 藻類 2: 45-47.

YENDO, K. (1907) The Fucaceae of Japan. Journ. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 21(12): 1-174.

* 北海道大学理学部植物学教室 (060 札幌市北区北10条西8丁目)

◎第13回・国際植物学会 (XIII International Botanical Congress) の案内

第13回・国際植物学会議が1981年(昭56年)8月21日~28日にわたってシドニー(オーストラリア)で開催されます。この第10部会—海・淡水植物学の chairman であるウマズリー教授(アデレード大学植物学教室)から下記のような案内が当学会にきています。

○Section 10. Marine and Freshwater Botany.

部会は全期間中開催の予定。海草、マングローブ、および藻類学のあらゆるテーマについて、シンポジウムと一般講演が行われる。提出された論文について、口頭発表は選択されるが、残りは要旨か全文が出版される予定。また展示もできる。

下記の Topics と Field trips が計画中であるが、これらおよびそれ以外のものについて、意見や提案があったら申し出てほしい。

○Topics (題目)

- 1) 微細構造と生化学的研究を含む、藻類の形態と分類についての新知見
- 2) 藻類の有性生殖
- 3) 藻類群落の構造と動態
- 4) 熱帯サンゴ礁での藻類の役割
- 5) 南極藻類学
- 6) 海草 (Seagrasses) とその生物学
- 7) 藻類・海草・マングローブ群落の生産力

8) 南半球に力点を置いた藻類の生物地理学

9) 南半球での藻類の利用

10) 珪藻の分類と生物学

11) ラン藻類の分類学的概念

12) 化石藻類

以上の題目は重ならないよう計画されているが、多少は重なるかも知れない。しかし、重なっても希望者の大多数は参加できるよう計画中である。

○Field trips (見学旅行)

1) (会期前) 海草とマングローブを含む、大堡礁(海岸に平行に走るサンゴ礁)であるヘロン島への旅行(7日間)

2) (会期後) オーストラリア固有海産分類群のためのメルボルンとアデレードへの海岸めぐり(8日間)

3) 淡水生育地へのシドニーからメルボルンへの旅行(6日)(会期前旅行の予定)

4) 期間中の1日旅行

(a) C. S. I. R. O の Cronulla にある水産・海洋学部の見学、海草群落見学のためのボート旅行。

(b) マングローブ、海草および藻類群落のための Botany Bay への旅行。

(c) 海食台 (rock platform) への旅行。

(d) 淡水生育地への1乃至数回の旅行。